



難防除害虫に効く コテツ®フロアブル

® = BASF社の登録商標

- 登録作物が多い
- 幅広い害虫種に優れた効果
- 同時防除に最適

■ 適用害虫と使用方法

* 本剤及びクロルフェナピルを含む農薬の総使用回数の制限を示す。

作物名	適用害虫名	希釈倍数(倍)または使用量	使用液量(ℓ/10a)	使用時期	使用*回数	使用方法				
りんご	キンモンホソガ、ナミハダニ、ハマキムシ類、ミノガ類	2000	200~700	収穫前日まで	2回	散布				
	ヨモギエダシャク、リンゴサビダニ	2000~4000								
もも	ミカンキイロアザミウマ	2000								
	モモハモグリガ、カンザワハダニ、ナミハダニ、モモサビダニ、ウメシロカイガラムシ	2000~4000								
ネクタリン	ミカンキイロアザミウマ	2000								
おうとう	ナミハダニ、カンザワハダニ、チャノキイロアザミウマ、オウトウショウジョウバエ、ウメシロカイガラムシ	2000								
	チャノキイロアザミウマ、フタテンヒメヨコバイ、ミカンキイロアザミウマ、ブドウサビダニ、ハマキムシ類	2000~4000								
ぶどう	ナミハダニ、カンザワハダニ、ハスモンヨトウ、トビイロトラガ、モンキクロノメイガ、ミノガ類、コガネムシ類、ブドウハモグリダニ	2000								
	ナミハダニ、カンザワハダニ	2000~4000								
かき	カキノヘタムシガ、イラガ類、アザミウマ類、カキサビダニ	2000~3000								
	ナミハダニ、カンザワハダニ、ニセナシサビダニ	2000								
なし	ヨモギエダシャク、チャノキイロアザミウマ	2000~4000								
	ヨモギエダシャク、ハスモンヨトウ、リュウキュウミカンサビダニ、カネタタキ、スグリソウムシ	2000~6000								
かんきつ	アザミウマ類(ネギアザミウマを除く)、チャノホコリダニ、ミカンサビダニ	2000~6000								
いちじく	ヒラスハナアザミウマ、カンザワハダニ、ショウジョウバエ類	2000	100~300	収穫前日まで	2回	散布				
小粒核果類	オウトウハダニ、ウメシロカイガラムシ、イラガ類									
キウイフルーツ	キウイヒメヨコバイ、コガネムシ類									
マンゴー	チャノキイロアザミウマ									
ゴレンシ	カンザワハダニ									
ブルーベリー	イラガ類、オウトウショウジョウバエ									
あずき	ハダニ類、ノメイガ類									
豆類 (未成熟、ただし、さやいんげん、さやえんどう、まえんどうを除く)	ハダニ類									
さやいんげん	ハダニ類、アズキノメイガ									
実えんどう さやえんどう	ハダニ類、ハスモンヨトウ									
きゅうり	ミカンキイロアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ、ハダニ類、ウリノメイガ、ウリハムシ									
うり類(漬物用)	ミナミキイロアザミウマ、ハダニ類									
すいか	ミナミキイロアザミウマ	4000								
	ハダニ類、オオタバコガ、ウリノメイガ	2000	100~300	収穫前日まで	2回	散布				
にがうり かぼちゃ (日本かぼちゃ)	ミナミキイロアザミウマ									
トミマト	オオタバコガ、ミカンキイロアザミウマ、ナミハダニ、トマトサビダニ、トマトキバガ									
なす	ミカンキイロアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ、チャノホコリダニ、ハダニ類、オオタバコガ、ハスモンヨトウ、ヨトウムシ、テントウムシダマシ類									
ピーマン とうがらし類 (ししとうを除く)	ミカンキイロアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ、オオタバコガ、ハダニ類									
ししとう	ヒラスハナアザミウマ									
キャベツ	コナガ、アオムシ、タマナギシウワバ、ハスモンヨトウ、ヨトウムシ、シロイチモジヨトウ、オオタバコガ、ハイマダラノメイガ			2000			100~300	収穫3日前まで	2回	散布
	ブロッコリー									
茎ブロッコリー	アオムシ									
カリフラワー	コナガ									
ザーサイ しゅんぎく	ハスモンヨトウ									
メキャベツ 非結球メキャベツ コリアンダー(葉) やなぎたで										
なばな類 エンサイ										
はくさい		コナガ、アオムシ、ヨトウムシ、カブラハバチ								
非結球あぶらな科葉菜類 (こまつな、チンゲンサイ、なばな類、非結球はくさい、非結球メキャベツを除く)	コナガ									
チンゲンサイ	アオムシ、コナガ									
非結球はくさい	アオムシ、コナガ									
こまつな	アオムシ、コナガ、ハウサイダニ									
だいこん	アオムシ、コナガ、ダイコンサルハムシ									

Table with columns: 作物名, 適用害虫名, 希釈倍数(倍), 使用液量(ℓ/10a), 使用時期, 使用回数, 使用方法. Rows include various crops like corn, soybeans, and tea.

殺虫剤分類 13
△効果・被害等の注意
●使用の際は容器をよく振って均一な状態にしてから所定量を取り出して下さい。
●ハウス等の常温煙霧に使用する場合は、以下のことに注意して下さい。
○専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧して下さい。
○常煙霧装置の選定及び使用に当たっては病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。
○できるだけ日中の煙霧は夕方、夕刻から煙霧し、6時間以上密閉状態にしてください。
●ポルドー液と混用する場合は凝集することがあるので、本剤を調整した後にポルドー液と混合してください。
●ハダニ類は繁殖が早く、密度が高くなるため防除が困難になるので、発生初期に散布むらのないよういていまいに散布してください。
●散布量は対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせ調節してください。
●本剤は植物体への浸透移行性がないので、かけ残しのないように葉の裏面に十分に散布してください。
●きゅうり・なす・はくさい・だいこん・非結球あぶらな科葉菜類・なばなおよびセルリー等の幼苗期に使用すると被害を生じることがあるので注意してください。
●みずかけな(水掛菜)に使用する場合は、ほ場内に水がない状態で使用してください。また、使用后14日間は入水しないでください。
●ピーマン・とうがらし類に使用する場合、品種により葉に褐点などの被害を生じることがあるので、予備散布により被害の少ないことを確認してから散布してください。
●かき(刀根早生など)の着色期の散布は被害を生じるおそれがあるのでさけてください。
●すいかに使用する場合、葉に被害を生じることがありますが、その後の生育に対する影響は認められていません。
●にがりの幼苗期には被害を生じることがあるので、定植前には使用しないでください。定植後にはがりに使用する場合は、葉に灰褐色などの斑の被害を生じることがあるので、予備散布により被害の少ないことを確認してから散布してください。
●西洋かぼちゃ(黒皮栗・青皮栗・えびす・雪化粧・みやこ・黒皮甘栗・栗味・栗マロン・芳香等)には被害を生じるおそれがあるので、使用しないでください。
●ほうれんそうに使用する場合、葉に白化などの被害を生じるおそれがあるので、必ず使用時期を守って使用してください。
●ばら・食用ミニバラに本剤を初めて使用する場合は、事前に被害の有無を十分確認してから使用してください。
●カーネーションへの散布は被害を生じるおそれがあるのでさけてください。
●シクラメンに使用する場合、新葉に被害を生じる場合があるので、葉害の出ないことを事前確認してから散布してください。
●カラー及び花はすに使用する場合は、灌水状態で使用しないでください。また、使用后14日間は入水しないでください。
●周辺の作物にかかることと被害を生じる場合があるので、かからないよう十分注意して散布してください。
●蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
●ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意してください。
○ミツバチの巣箱及びその周辺にからないようにしてください。無人航空機による散布でそれらに飛散するおそれがある場合には使用しないでください。
○受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけてください。
○関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めてください。
●マルハナバチに対して影響があるので注意してください。
●本剤を無人航空機で散布する場合は、次の事項に注意してください。
○散布機種種の散布基準に従って実施してください。
○散布機種に適合した散布装置を使用してください。
○散布中、薬液が漏れないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行ってください。
○散布薬液の飛散による他の分野への影響に注意して、散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意してください。
○散布終了後は以下の注意事項を守ってください。
・使用後の空容器は放置せず、安全な場所に廃棄してください。
・使用残りの薬液が生じないように調整を行い、使いきってください。
・散布終了後、機体の装置は十分洗浄してください。また、薬液タンクの洗浄廃液は河川等に流さないでください。
●本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。
●適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に被害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

*1 花穂の発生期にはマルチフィルム被覆により散布液が直接花穂に飛散しない状態で使用する
*2 花穂を収穫しない場合にあつては開花期終了まで *3 但し、伏せ込み栽培は伏せ込み前まで
*4 無人航空機による散布 *5 使用量

太字の箇所は2023年7月5日現在、適用拡大事項。

水産動植物(魚類・甲殻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意してください。使用残りの薬液が生じないように調整を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

★使用前にはラベルをよく読んでください。 ★ ラベルの記載以外には使用しないでください。 ★ 小児の手の届くところには置かないでください。
★ 使用後の空容器等は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理してください。 ★ 防除日誌を記載しましょう。

△安全使用上の注意
●医薬用外劇物。取扱いには十分注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の指示を受けさせてください。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の指示を受けてください。
●散布等の作業の際は、防護マスク・手袋・不浸透性防除衣などを着用してください。作業後は手袋・顔などを石けんでよく洗い、うがいをしてください。
●常温煙霧中はハウス内へ入らないでください。また、常温煙霧終了後はハウスを開放し、十分換気した後に入室してください。
●街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう周囲に立札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
●直射日光をさけ、鍵のかかるなるべく低温場所に密栓して保管してください。

※この資料は2023年7月現在の知見に基づき作成したものです。